

4. 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

(1) 育みたい資質・能力

★★★★★ check

ア 保育所においては、生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、1の(2)に示す保育の目標を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

(ア) 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「**知識及び技能**の基礎」

(イ) 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「**思考力、判断力、表現力**等の基礎」

(ウ) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「**学びに向かう力、人間性**等」

イ アに示す資質・能力は、第2章に示すねらい及び内容に基づく保育活動全体によって育むものである。

(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

★★★★★ check

次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく保育活動全体を通して資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿であり、保育士等が指導を行う際に考慮するものである。

ア 健康な心と体

保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、**見通し**をもって行動し、自ら**健康**で**安全**な生活をつくり出すようになる。

イ 自立心

身近な環境に**主体的**に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、**工夫**したりしながら、諦めずに**やり遂げる**ことで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

ウ 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、**共通の目的**の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、**充実感**をもってやり遂げるようになる。

エ 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに**共感**したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と**折り合い**を付けながら、**きまりをつくったり、守ったりする**ようになる。

オ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、**地域**に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、**公共**の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

カ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、**物の性質**や**仕組み**などを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、**自ら判断**したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

キ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて**感動**する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、**好奇心**や**探究心**をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、**生命**の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の**役割**に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

ケ 言葉による伝え合い

保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、**豊かな言葉**や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、**言葉による伝え合い**を楽しむようになる。

コ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な**素材**の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、**表現する喜び**を味わい、意欲をもつようになる。

理解のポイント

ここでは**自立心**、**協同性**、**社会生活との関わり**など**他者との関わり**の中で磨かれる**資質・能力**が多く出題されています。子どもの成長・発達を考えるうえで下記の2つの視点が求められます。

① 「個の理解」

- 健康な心と体、自立心など

② 「集団の理解」

- 協同性、道徳性・規範意識の芽生えなど

子ども一人一人の育ちや課題を把握することが「個の理解」、そして集団で行う活動においてみられるグループ全体の課題を把握することが「集団の理解」にあたります。

- ① 「個の理解」においては子ども一人一人が**現在どのようなことに興味・関心を持っているか**を理解し、活動計画の中に取り込むようにし、興味の対象から感じ取っている**心情**（嬉しい、楽しい、悲しい、可愛いなど）や物事にチャレンジしようとする**意欲**、保育所での活動に自分から主体的に関わろうとする**態度**を重視することが必要です。
- ② 「集団の理解」においてはグループやクラス活動といった**集団の活動**を通して育まれる子どもの成長を目標に掲げることになります。今までは自分の興味・関心に限定されていた一人一人の活動が、クラス内の他の子どもに関心が向くようになり、自分のことばかりを訴えかけていた子どもたちが他人の気持ちに気づくようになり、自分の役割を果たすだけでなく友達を助けたり協力し合ったりし（協同性）、集団として一つの目標に向かうことができるように、保育士が関与することが求められます。